

活気あふれるまちを取り戻す



町内の各地区で公民館まつりが開催され、徐々にまちに活気が戻ってきました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、様々なイベントの開催が自粛されてきましたが、少しずつイベントが開催されてきています。「感染症法」における新型コロナウイルス感染症の取り扱いを2類から5類に変更する方針が国から示されたことで、本格的なウィズコロナ時代を迎える中で、今後の地域活動や経済活動が活性化し、回復していくよう町も情報発信や支援をしていきます。

諦めなかった絵本づくり



2月24日(金)に柿本とよ子さん(大垣市 写真中央右)より、自身が制作した絵本「みおちゃんと飛べないあげは」を寄贈していただきました。柿本さんは、日吉小学校の卒業生で、絵本を制作したいというかねてからの夢を叶えました。この絵本には、柿本さん自身の体験から生まれた「子どもたちに命の尊さを伝えたい」という思いが込められており、その思いを伝えていくために、町内の小学校や図書館に設置し、生き物に対する愛情や慈しむ気持ちを育む教材として活用します。

持続可能な地域環境の確保を目指して



養老町・海津市・関ヶ原町により構成される南濃衛生施設利用事務組合が建設を進めていた新衛生センターの完成を祝い、2月7日(火)に地元住民など関係者を招いてお披露目会が開催されました。

新センターは日量65キロリットルの処理能力を有し、非常用発電機の設置により停電時でも、し尿などの受け入れが可能です。また、高効率の遠心脱水機の導入により脱水した汚泥を清掃センターの助燃材として使用できるようになったほか、放流水の消毒に紫外線消毒装置を採用するなど、環境にも十分に配慮されています。

管理者である川地憲元町長は「わが国の水処理技術の粋を集めた最新鋭の施設が完成しました。美しく住みよい生活環境の確保とともに、循環型社会の実現に寄与し、地域の皆さまにも評価していただける施設だと思えます」と力強く話しました。

続けていくことを大切に



2月28日(火)に養老町生活学校より身体の不自由な人への支援のために車椅子1台を寄附していただきました。養老町生活学校は、身近な生活課題の解決に向けて、環境を守るための活動や福祉活動など、多岐にわたり取り組んでいます。

また、平成11年から毎年継続して車椅子を寄附いただいており、川地憲元町長は「高齢化が進んでいる中で、公共施設などにおいても車椅子が必要な場面は増えてきています。公共施設に設置し、ありがたく活用させていただきます」と感謝を伝えました。

寄附いただいた車椅子は、公共施設に設置し、貸し出し用として活用します。